

を切ったようです。長野県の旧制中学校では一番早く創部され、開校当時、全校生徒にサッカーシューズを履かせ通学させたことは有名です。

初代校長、小松武平先生は現在の茅野市米沢で明治10年にお生まれになり、長野師範、東京高師と進まれ、東京高師を明治38年に卒業され、教育界に身を捧げることになりました。

日本でサッカーの国際試合が行われたのは明治37年2月、大塚の東京高師グラウンドに於いて同校とYC&ACとの間で行われた試合が初めてであり、翌年の明治38年1月にも両チームの試合が行われました。当時、小松武平先生は東京高師に在籍をされておられ、東京高師とYC&ACとの試合を観戦したと思われまます。そして、そのことが松

本第二中学校にサッカーを校技として採用した背景の一つになったのではと推測できます。開校に当たり、小松武平先生は、東京高師でキャプテンとして活躍をし、旧制広島中学校でサッカー部の監督をされた松本寛次先生を教頭、監督として招聘され、県陵の基を築いたようです。県陵サッカー部も創立と同時に始まり100年を迎えようとしています。初代校長小松武平先生の建学の精神に思いを致し、創部200年に向け新たなスタートを切って欲しいと願います。小松武平先生の三訓、ここに建学の精神、県陵魂があると考えるところです。

### 家業を継いで感じたこと

高54回 山崎 広太



最後に、創立200年に向け、母校松本県ヶ丘高校の益々のご発展をお祈り申し上げたいと思います。

私が猛威を振るい、瞬く間に休業する事態となりました。その時、周りには「よくこんな時期に社長になったね」と同情される方もいました。

私がコロナ禍で社長に就くことを公表した際、当館の常連のお客様や取引先の業者様から、激励の言葉やお祝いのお花を頂きました。さらには、県陵で長年教師を務めていた私の叔父、故山崎正治の同窓生や教え子の方々からの応援もありました。

そうした多くの方々からの支えがあったからこそ、「応援してくれた人達の期待を裏切つてはいけない。やれる限りのことを尽くそう」という気持ちになりました。

コロナ感染が拡大する中で、社会状況が目まぐるしく変わりましたが、皆さんの困難にぶつかりました。その時によく頭の中に蘇ってきたのが、県陵三大精神の一つ「弱音を吐くな」という言葉です。「このような時に不満を吐いても、状況は良くならないのだから、全力で取り組むしかない。」と思い、日々の仕事に全身全霊で打ち込みました。その結果、曲がりなりにも、このコロナ禍で感染者を出すことなく、今日まで営業を続けてこられました。この経験を通して、「大変な事であっても、本気で取り組みれば何とかなる。」という事を実感しました。

そして、もう一つ分かったことは、「多くの方の支えの下に今の自分がある。」という事です。

経営を学び、現場で修行を重ねて、昨年正式に親から代を引き継ぎ、「経営者」となりました。ところが、社長になると宣言した矢先に、新型コロナウイルス



未だコロナ禍の終息はいつになるのか分かりませんが、これからも全力でこの困難に立ち向かっていこうと決意を新たにしています。

**四柱神社**

宮司 宮坂信廣 (高25回)

〒390-0874 松本市大手3-3-20  
TEL 0263 (32) 1936  
FAX 0263 (32) 1942  
<https://www.go.tvm.ne.jp/~yohasira>

地球にやさしいエネルギーをお届けします

**サンリン株式会社**

取締役会長 柳澤 勝久 (高25回)

東筑摩郡山形村下本郷4082-3  
☎ 0263-97-3030 FAX 97-3040  
<http://www.sanrinkk.co.jp/>

食卓を笑顔に。

ナガノトマト  
**Nagano**

代表取締役 井垣孝夫 (高23回)

**株式会社 ナガノトマト**  
松本市村井町南3-15-37 TEL.(0263)58-2288  
<https://www.naganotomato.jp>